

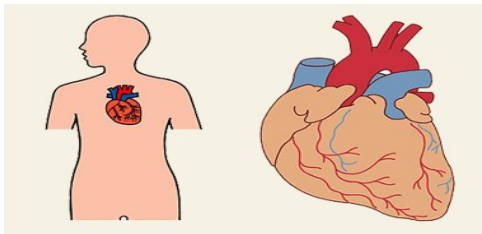


歯科と全身疾患 ～心臓病～

No.51

心臓とは

心臓は、生まれてからずっと休むことなく働き続ける臓器で、同じリズムを出来るだけ維持して、全身の血管(総長約10万キロメートル)に血液を送るポンプの役割をしています。心臓から送りだされた血液は必要な酸素や栄養を全身に運び、やがてまた心臓に還ってきます。つまり**体中の血液が全てこの心臓を通過することになる**ので、血液中に入り込んだ有害なものも心臓を通過することになってしまいます。



心臓病とは

現在心臓病は「がん」「脳卒中」と並び、日本人の死因の上位に常に入っている病気です。厚生労働省の調べでは100万人以上の方がかかっており、年間およそ15万人が亡くなっているそうです。では、原因は何でしょう？

① 先天的な異常

心房中隔欠損や心室中隔欠損などのように、心臓や血管の奇形という形で異常が現れることで、程度や個人差によっては成長と共に自然治癒することもあります。基本的には適切な時期に手術が必要です。

② 生活環境

高血圧や動脈硬化などの**生活習慣病**は血管や血流に影響を及ぼすことが多く、血流をコントロールしている心臓にも影響がでることがあります。

③ 体外からの影響

健康であっても心室細動などのように心臓に強い衝撃が加えられておこるものや、エコノミークラス症候群などで出来た血栓が心臓に送られることで心不全をおこすこともあります。

このように、心臓病といっても多くの種類があり、特に動脈硬化が原因でおこるもの(虚血性心疾患。代表的なものが心筋梗塞と狭心症)の死亡率は最も高く、年間約7万人の方が亡くなっています。

心臓病と歯科

抜歯などの**出血を伴う**処置を受けると、口腔内のばい菌が多少とも血液の中に入り

ります。これを菌血症といいます。やがてばい菌は体の免疫によって死んでしまいます。しかし弁膜症や先天性心臓病などで血液の流れに異常があり、さらに心臓の内面や弁に傷があると、そこにはばい菌が繁殖します。その巣からはばい菌が継続的にばらまかれると体の様々な場所で問題を起すことがあります。しかし歯科治療を受ける前に適切な抗生物質を服用すればたいていの場合は治療が可能となります。また、虚血性心疾患のような場合、血液をサラサラにする薬が処方されていることがあります。この場合、抜歯などの外科処置の際、止血しにくいことがあり注意が必要です。しかしながら事前に薬をコントロールすることで安全に歯科治療を受けることができます。



心臓病の方は歯科治療を受ける前にその**病名**と**経過年数**、**検査データ**や**服用中の薬名**などの情報を提供してください。それにより安全な歯科治療ができるようになるのです。



社団法人

柏歯科医師会

Http://www.kamukamu.or.jp

Email:kda@cc.rim.or.jp

